

## 5/29 – Lecture 2.

### 「リオンは世界のバラの首都という栄誉ある称号を得られるか」

講師：ステファン・クローザ氏

民族植物学と造園史の研究者、CRBA（応用植物資源センター・リヨン）理事長

リヨン地方は園芸品種の改良において、19世紀と20世紀初頭までヨーロッパの最も重要な地域の一つだった。1830年～1960年の間に花、果物や野菜の何千もの品種が、新しいジャガイモから新しいランに至るまで作出された。地理的、歴史的、植物学的な地域の特性からもたらされるこの驚くべき環境が、傑出した人材の誕生を可能にした。たとえばギヨーとペルネ・デュシェの一族は、今でも非常に優れた育種家として認められている。バラの分野においては1850年当時、世界のバラ品種の60パーセントがこの地方で創りだされたものであったので、リオンの園芸の名声は顕著であった。

上に述べたリオンの歴史に関する考察は、2003～2008年のフランス国立科学研究センター（CNRS）とその後の応用植物資源センター（CRBA）における、ステファン・クローザによる科学研究に基づいている。16世紀から今までの歴史的文献に基づき、リヨン市とその近郊がいかにして園芸業界を先導するようになったかがわかる。そしてこれは、『リオンが世界のバラの首都という栄誉ある称号を名乗れるか？』という問いに、答えを与えるだろう。

(次葉、補足説明あり)

(補足説明)

・バラの香りは大きく分けて2種類に分けられる。

一つが甘くゴージャスな香りのダマスク系（ヨーロッパ）

もう一つは、紅茶に似た上品で優雅な香りのティー系（中国）

18～19世紀この二つの品種を交配して作られたのが、ティーローズです。

・1867年モダンローズ第1号「ラ・フランス」を世に送り出した作出者のギヨームはリヨン人。1900年、これもリヨンの育種家ペルネ・デュシェにより最初の黄色のバラ「ソレイユ・ドール」を誕生させました。そして、リヨン人、フランス・メイアンによって1945年発表された有名な「ピース」が生み出されました。この「ピース」は1976年イギリス・オックスフォード大会で栄誉の殿堂入り（Rose Hall of Fame）第1号となりました。現在でも世界のバラをリードするメイアン社がスタートした地、リヨンはバラを語る上で欠くことのない都市であります。

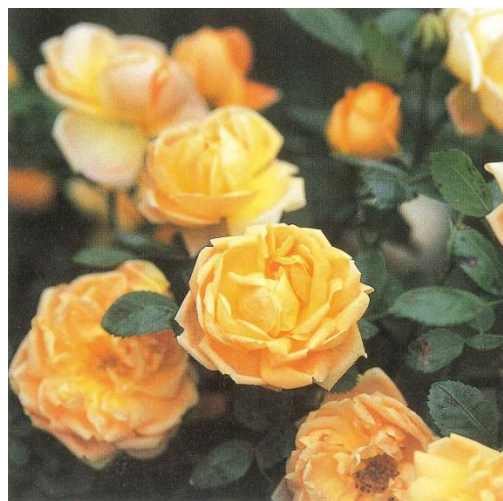
・ハイブリッド ティー ローズ

2種類のバラを交配して作られたバラ。当初はハイブリッド パーペチュアルローズ（四季咲き雑種）とティーローズ（前述）を掛け合わせた雑種。「ラ・フランス」はハイブリッド ティー ローズ第1号でもあります。

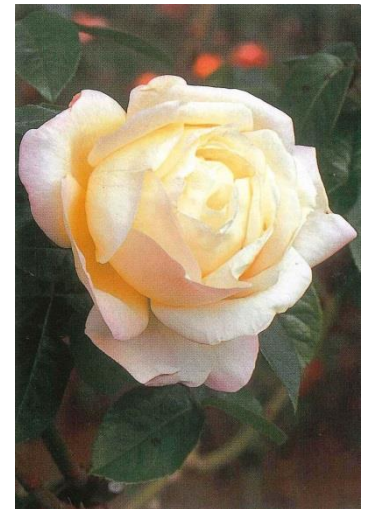
ラ・フランス



ソレイユ・ドール



ピース



写真出所) ラ・フランス、ピース : バラ文化研究所(著)『憧れのローズガーデン』主婦の友社

ソレイユ・ドール : 野村和子(著)『オールド・ローズ花図譜』小学館